



エコ・ファーストの約束(更新書)

— 環境先進企業としての地球環境保全の取組 —

環境大臣 西村 明宏 殿

令和4年10月2日

株式会社LIXIL
代表執行役社長 瀬戸 欣哉

株式会社LIXILとその子会社は、世界中の誰もが願う豊かで快適な住まいの実現と地球環境の未来への貢献を目指し、2050年までに原材料調達から製品が寿命を終えた後までの事業プロセスと製品・サービスを通じて温室効果ガスの排出を実質ゼロにし、水の恩恵と限りある資源を次世代につなぎます。そのために、以下の取り組みを進めます。

1 製品及びサービスのライフサイクル全体での環境影響を評価し、住まいの質の改善や、気候変動の緩和と適応、水の持続可能性の追求、資源の有効活用、水危機や気候変動をはじめとした環境課題の解決に貢献する製品及びサービスの開発と普及に取り組みます。

- CO2排出量（スコープ3）を2030年度までに2018年度比で30%削減することを目指します。
*スコープ3は、製品の使用においては給湯エネルギーなど間接的に消費されるエネルギーによる排出量を除く。
*SBTの「1.5℃水準」に合致したものであり、当社ではSBT認証を更新する予定。
- 高性能な断熱サッシ・ドア、節電・節湯機能を高めた水まわり製品などの開発・販売により、家庭・オフィスビル等の民生部門におけるCO2排出量の削減に貢献します。国内事業においては、新築ユーザー向け住宅向け高性能窓の販売構成比を2025年度までに100%、節湯水栓・節水型トイレの販売構成比を2030年度までに100%に高めることをめざします。この目標の達成に向けて、住宅やビルのエネルギーや水の使用量を削減する環境配慮型商品のラインアップを拡充し、将来の事業成長へとつなげてまいります。

2 あらゆる業務において環境配慮型のオペレーションを実践し、持続可能な資源の利用、エネルギーや水の効率的な利用、廃棄物や化学物質の適正な管理・削減などに取り組みます。

- 2050年までに事業プロセスと製品・サービスによるCO2排出量を実質ゼロにすることを目指した取り組みを強化します。事業所でのCO2排出量（スコープ1、2）を2030年度までに2018年度比で50%削減することを目指します。*SBTの「1.5℃水準」に合致したものであり、当社ではSBT認証を更新する予定。
その実現のために、エネルギー使用の効率化や、事業で使用する電力の100%を再生可能エネルギーにすることを目指す企業イニシアチブ「RE100」に参加し、再生可能エネルギーの活用を促進していきます。
- 原材料の調達、製造、製品の使用・廃棄まで、あらゆるプロセスにおけるCO2排出量の削減に努めます。
*SBTの「1.5℃水準」に合致したものであり、当社ではSBT認証を更新する予定。
- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に基づき、気候変動問題がLIXILに及ぼすリスクと機会の特定・評価を行い、情報開示フレームワーク（ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標）に沿った情報開示を行ないます。
- 限りある資源の持続的な利用を見据えて、原材料の調達から製造、使用されている間や役目を終えた後までを考慮した循環型のものづくりを目指し、製品のライフサイクルで投入される資源やエネルギー消費量の削減や、廃棄物の削減、新規に投入する資源の最小化や、リユース・リサイクルなどの資源の有効活用・循環利用、廃棄物の再資源化を推進します。
また、「LIXILプラスチック行動宣言」を策定し、プラスチックから代替材への転換、循環利用の促進、ステークホルダーとの協働を促進します。

3 企業市民としてステークホルダーと相互理解を深め、地域社会に参画し協働します。

- 水の大切さを伝える「水から学ぶ」、快適に住まい続けるための健康と環境を考える「健康と環境によい住まい方」、衛生的なトイレの重要性を伝える「トイレが世界を救う」といったオリジナル出前授業を小学校に従業員が出向いて継続的に実施します。子どもたちに教えることで従業員自身の知識も深まることはもちろん、従業員の人間的な成長にも寄与しています。
- パートナーさまや自治体との連携協力を通じて、気候変動の緩和と適応を啓発・推進します。例えば「窓からECOシェアプロジェクト」では、住宅の新築・リフォームの際に気候変動の緩和に貢献する断熱性能の高い窓や玄関ドアをご採用いただいた際の売上の一部で、保育所・幼稚園などの保育施設に外付日よけを寄付・設置することで、気候変動の適応策として子どもたちの室内熱中症予防を推進しています。

株式会社LIXILは、上記取組内容の進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに環境省へ報告いたします。

LIXIL